

## 釧路市の職業的アセスメントを介した連携システムについてのヒアリング調査の結果

研究分担者 縄岡好晴（大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科）

### 研究要旨

本研究では、職業的アセスメントを介した多機関連携のあり方について、釧路市に対するヒアリング調査の結果について報告する。ヒアリング調査を通じて、釧路市における多機関連携において用いられているアセスメントツール、そのアセスメントの内容等が、この取組みの構築経緯とともに明らかになった。

#### A. 研究目的

令和2年度厚生労働省科学研究での報告（前原ら，2021）では、障害者就業・生活支援センターのスタッフに対する専門性として、就労アセスメント技術の向上が最も重要な要素であると指摘されている。また、アセスメントの実施だけでなく、情報を共有する仕組みやその知識を修得する機会の必要性についても指摘されている。本調査では、このアセスメントを用いた地域連携の取組がうまくいっている自治体の一つである釧路市を取り上げ、釧路市の取組について整理する。

#### B. 調査方法

手続き

研究協力への了解が得られた釧路市の障害者就業就労・生活支援センターに対して、インフォームドコンセントを得た上でヒアリング調査を実施した。

ヒアリング調査においては、ZOOMを用いた。説明文書及び同意書は事前に郵送し、ヒアリング時に同意を得て調査を開始し

た。ヒアリング調査の時間は約120分とした。

インタビュー時のテキスト・音声及び映像は、ZOOMによる機能を使った記録は行わず、ネットワークから切り離されたICレコーダーで音声を記録した。また、ヒアリング時に、録音を拒否された内容については、筆記にて記録を残した。ZOOMの使用については、ミーティングに入る際はパスワードを設定し、パスワードは厳重に管理することとした。研究の説明時点で、明らかになっているZOOMの脆弱性についてはわかりやすく説明をした。

#### （倫理面への配慮）

本研究は大妻女大学生命科学研究倫理審査の承認を得た。（承認番号03-25）

#### C. 結果

釧路市の就労系障害福祉サービスの支給決定における職業的アセスメントを介した多機関連携の工夫等について以下の3点から確認を行った。

- ①就労アセスメントの内容
- ②アセスメントの仕組み構築の経緯
- ③多機関連携のあり方。

#### ①就労アセスメントの内容

就労アセスメントの内容を検討する上で、釧路市では、各支援機関が円滑に情報共有できることを前提に検討行っていた。この円滑な情報共有ということ達成するために、内容検討は、主に、障害者就業・生活支援センターが行った。障害者就業・生活支援センターがその素案を作成し、就労支援部会で共有する手続きで検討を行った。

就労アセスメントの内容、障害者就業・生活支援センターが中心となって検討して作成した就労アセスメントのためのシートは、職務遂行に関連したスキルではなく、就労を支えていくスキルである「職業準備性」に関連した項目から構成された。この職業準備性に関連する項目は、障害者就業・生活支援センターの実施する定着支援もにおいて、しばしば対象者の課題として多く指摘されるものであった。

また、この就労アセスメントのためのシートの作成においては、TTAP (TEACCH-Transition Assessment-Profile) の内容を参考としていた。具体的には、事業所尺度、家庭尺度の計 144 の項目、職業行動・自立機能・余暇スキル・機能的コミュニケーション・対人行動から構成される 5 つの機能領域を参考としていた。この TTAP は、アメリカノースカロライナ州で実績のある TEACCH Autism Program で開発された自閉症者の就労移行アセスメントであり、定着支援についての効果が示された指標の一つである

(Mesibov et al., 2017)。

このような検討結果に基づき、釧路市独自のアセスメントシートが開発されている。釧路市では、このアセスメントシートを用いるだけでなく、継続的にアセスメントシートを用いた就労アセスメントが行われていくために、アセスメントシート利用時の就労支援機関や一般就労の実態について情報提供、アセスメントの実施前後のケース会議などを実施し、就労の可能性について検討するなどの仕組みも構築されていた。

#### ②アセスメントの仕組み構築の経緯

このアセスメントシートを用いた仕組み作りについては、就労支援部会を中心に行政に働きかけを行い、作り上げられていた。障害者就業・生活支援センターの素案に対して、就労支援部会（行政・就労支援機関・特別支援学校・ハローワーク・企業）で幾度も検討を重ね、地域で使用する就労アセスメントシートの完成となっている。現在も続く仕組みとなっている理由の一つとして、就労支援部会において、この作成に時間をかけたことであったと認識されていた。就労支援部会において、検討する中で、部会員の情報共有が十分に行われたことが、部会員間のコミュニケーションを円滑にしたようである。

このようなコミュニケーションについては、作成時のみならず、作成後も、このアセスメントシートの改善に向けて議論を重ねるだけでなく、新たに使用する支援者に対する研修の機会を設定していた。

#### ③多機関連携のあり方

釧路市は、非常に円滑な多機関連携が行

われており、行政・障害者就業・生活支援センターが中心となり、地域の関係機関との連携が密に取られていた。そのための連携を維持するための取組みとして、就労支援部会などでの定期的な情報交換会以外にも、年に数回の研修会の開催が挙げられた。この研修会では、支援スキルの強化だけでなく、各支援機関での事例共有を行っていた。この事例共有により、地域の支援機関同意が信頼できるメンター的な機能を果たすことにつながっていた。これにより、多機関連携に必要な横のつながりが強化されていると考えられた。

現状、釧路市では、就労継続支援 B 型事業所を希望した特別支援学校卒業生の内、2割程度が卒業後に就労移行支援の利用に進路変更しており、就労アセスメントが効果的に活用されていた。また、能力の向上が見込める利用者には 3 年後に再アセスメントも実施するなどの取組も多く見られ、就労アセスメントを介した多機関連携が上手く機能する状況があった。

#### D. 考察

本調査からは、職業的なアセスメントによる多機関連携を効果的に進めるための要因として、以下の 3 点が考えられた。

##### ①運営を担うキーパーソンの必要性

就労支援部会を中心としたシステムの構築においては、もちろん就労支援部会が十分に機能することが前提ではあるが、その一方で、その取組を推進していくようなキーパーソンの存在が必要であると考えられた。実際、障害者就業・生活支援センターの担当スタッフが県担当者及びその他の支援

機関の担当者との調整に入り、自治体内での課題点について整理し、情報を発信していたことが大きな役割を果たしていた。

この釧路市の実践においては、障害者就業・生活支援センターが大きな役割を果たしていたが、障害者就業・生活支援センターの支援者は、一般企業での就職から福祉における就労支援など、幅広く、就労アセスメントに関連した知識を持ち、具体的な就職支援の経験もある。これが地域の実情に合わせた仕組み作りにつながっていたと考えられた。

##### ②共通認識が図りやすいツールの導入

釧路市ではモデルとなるアセスメントツールをもとに就労支援部会を通じて各支援機関が共有しながら独自のツールを作成した。そして、継続的に内容を改定しつつ、常に確認できる仕組み作りを心掛けていた。その結果、常にアセスメント内容を共有できる環境が備わっており、アセスメントツールの共有が図りやすい状況であることが効果的であった。

このようにアセスメントツールを介在させることで、対象者支援の視点を同一にするなどの共通認識の促進が可能となるだけでなく、このツール及びこのツールの内容についての研修といった切り口で、地域全体で学ぶ環境を作り上げていくという地域協働の視点が醸成されていくことが重要であったと考えられた。

##### ③継続的に活用できる仕組み作り

釧路市の取組の特徴としては、就労アセスメントを作った当初だけでなく、これが継続的に維持されていることである。この

ために、釧路市では、就労支援部会でアセスメントに関する意見交換や研修会を行っており、就労支援部会がこの維持のための取組みを継続していた。この種の仕組みを継続していくことの必要が考えられた。

## **E. 結論**

職業的なアセスメントを介した多機関連携に向けては、地域における中心となるキーパーソンの存在、共通認識が図れるアセスメントツールの活用、継続的にアセスメントツールを活用できるための工夫が必要になると考えられた。

## **F. 引用文献**

前原和明・八重田淳・縄岡好晴・西尾香織・

後藤由紀子 (2021) : 就労に関するアセスメントツールや手法の効果的活用のための研究 厚生労働省科学特別研究事業

Mesibov, G., Thomas, J. B., Chapman, S. M. & Schopler, E. (2007). TTAP: TEACCH Transition Assessment Profile Second Edition. Texas: PRO-ED. (梅永雄二(監) 今本 繁・服巻智子(監訳) (2012). 自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィール:TTAP の実際 川島書店)

## **G. 学会発表**

### **1.論文発表**

なし

### **2.学会発表**

なし

## **H. 知的財産権の出願・登録状況**

なし